

愛着ある地元のため、チャレンジを続ける若きマジシャン

現在20歳で、大学3年生の仲野さんは「NPO法人驚かせないマジックショー」を運営しています。マジックを通して、幅広い世代に認知症の啓発活動を行っています。

【プロからの思いがけない言葉】現在の活動の始まりは、一人のマジシャンとの出会いから。幼い頃の夢が叶った瞬間を振り返ります。

「プロマジシャンのマジー墨さんが、川根で開催する『おしゃべりマジックカフェ』。大好きなマジック一門の芸が市内で見られると、新聞記事で知ったときは驚きました。次の回から早速参加して、観覧後にはドキドキしながらマジー墨さんと話をしてみました。マジック

への思いを話したところ、思いがけず『一緒にやってみよう』と誘ってもらい、現在の活動が始まりました」

【認知症を啓発する意義】マジー墨氏と出会い、活動を共にすることで、認知症啓発の大切さに気づかされた

と、仲野さんは話します。「初めて同行してみると、同じ芸を何度もやったりタネ

掛けてみると、私が誰か分からず『初めて会った』と言われ

ました。認知機能の低下で父の名前を伝えてやつと分かるほど。それが衝撃的で、同時に認知症の恐ろしさを実感しました。言葉で知っていて



NPO 法人驚かせないマジックショー 副理事長
なかのとむ 仲野翔夢さん(神座)

明かしをしたりと、マジックの定石と異なるやり方に驚きました。そのような中、迎えた2回目は、偶然にも曾祖母が入所する特別養護老人ホームが会場でした。楽しみにした久々の再会。曾祖母に話し

も、当事者でなければ他人事なんですよね。だからこそ、幅広い世代に周知するのと同時に、予防に取り組んで欲しいとの願いから、マジー墨さんと一緒に、驚かせないマジックショーを立ち上げました」

【このまちのためにできること】「当初は王道のマジックを披露していましたが、今は現在のスタイルの方が、いいなと思っています。何度もやるとお客さんはタネを見破ろうと頭を使い、最後のタネ明かしでは笑い

が起こります。参加者から『これは脳トレになるね』とうれしい言葉も掛けてもらいました。活動を通しておじいちゃん・おばあちゃんと話しをすると、喜んでくれるのでうれしいですね。そのような交流を通して、日々島田の良さを感じる中で、他にできることはないかと思ひ、3月から神座地区で「オレンジストリートプロジェクト」を始動させました。認知症に優しいまちを目指し、普及啓発に賛同していただいたお店などにステッカーを貼ってもらっています。学生で時間のある今がチャンス。できることにこれからも、どんどん取り組んでいきたいですね」

社会問題に、若い力で立ち向かう仲野さん。「驚かせないマジックで、生まれた笑顔の数だけ悩める人を減らし、認知症を予防する強い思いを市内に広げていきます。」



神座地区のお店に認知症啓発のステッカーを貼る仲野さん

Shimadajin File #158

島田 Story 人